

防衛力の抜本的強化の必要性

- 我が国は、**戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面**しています。国際社会においては、力による一方的な現状変更及びその試みが恒常的に生起し、日本周辺における軍備増強が急速に拡大しています。ロシアによるウクライナ侵攻のように、国際秩序の根幹を揺るがす深刻な事態が、将来、とりわけ東アジアにおいて発生することは排除されません。
- このような安全保障環境に対応するべく、力による一方的な現状変更を許さないため、防衛省としては、防衛力の抜本的強化の取組を進めているところです。

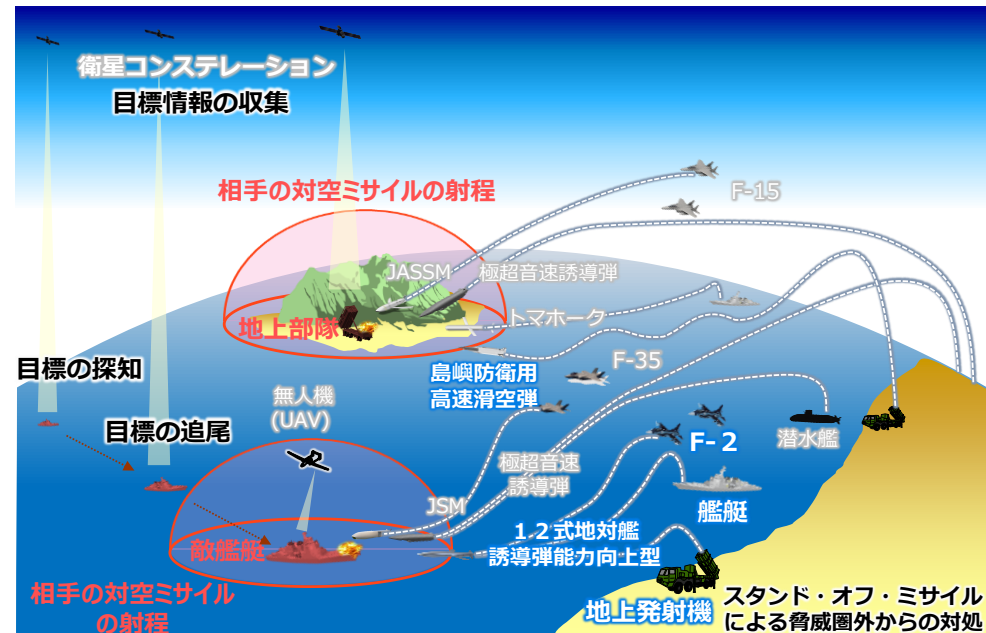
スタンド・オフ防衛能力の強化の必要性

- 諸外国のレーダー探知範囲や各種ミサイルの射程・性能は著しく向上しており、これらの脅威が及ぶ範囲は侵攻部隊の周囲数百km以上です。
- 我が国領域を守り抜くため、**島嶼部を含む我が国に侵攻してくる艦艇や上陸部隊などに対し、脅威圏の外から対処するスタンド・オフ防衛能力を抜本的に強化し、我が国への武力攻撃に対する抑止を向上させることが必要**と考えています。

スタンド・オフ・ミサイルの意義

- スタンド・オフ・ミサイルとは、島嶼部を含む我が国に侵攻してくる艦艇や上陸部隊等に対して、**遠方から対処することが可能なミサイル**です。
- これにより、各国の早期警戒管制能力や、各種ミサイルの性能が著しく向上していく中、**自衛隊員の安全を確保しつつ、我が国への攻撃を効果的に阻止することが可能**となります。
- 防衛力整備計画では、射程や速度、飛翔の態様、対艦・対地攻撃の性能、発射プラットフォームといった様々な点で**特徴が異なる様々なスタンド・オフ・ミサイルを整備することで、我が方の重層的な対応を可能とし、相手に複雑な対応を強いることで、我が国への武力攻撃そのものの可能性を低下させる**こととしています。

今後のスタンド・オフ防衛能力の運用（イメージ）



島嶼防衛用高速滑空弾の配備先について

防衛省
令和7年8月

- 島嶼防衛用高速滑空弾は、相手方の迎撃を困難とし、侵攻してきた相手の上陸部隊等に対処する装備品です。
- 配備先については、
 - 新規の装備品であり、要員の教育所要が大きいこと、
 - 令和7年度から要員の養成を開始することが必要があること等を総合的に踏まえ、**今年度末**に、装備品の運用に係る教育を担う**富士駐屯地(静岡県)**に配備する予定です。
- また、我が国を守り抜くという強固な意思と能力を示すことによる抑止力の強化や上陸部隊に対する対処力の強化、訓練環境や整備基盤等も総合的に踏まえ、**令和8年度**には、**上富良野駐屯地(北海道)**及び**えびの駐屯地(宮崎県)**に、それぞれ新たに部隊を新編し、**配備**させていただきたいと考えております。

島嶼防衛用高速滑空弾の地上装置(イメージ)



出典：陸上自衛隊ホームページ「令和7年度富士総合火力演習」



※日本全土を表した地図ではない